

平成28年度 久松小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 前田晶雄、関口利子、中村正信、佐藤 寛、川口修一郎、福田俊子、五味まさみ、岩田享也（敬称略）

報告書作成者：峯川一義

評価時期 平成29年3月

1 重点目標の評価

(1) 重点目標1（心と体の健康づくり）

- 全体的に心身ともに健やかに成長している児童の姿が見て取れた。外部評価委員会においても、穏やかで素直な子供が多いという意見がだされた。また、校医からは健康について「指摘事項なし」ということであつた。学校と家庭が連携を図り、児童の健康づくりに取り組んでいる様子がうかがわれる。
- 「重点目標2」とも関わるが、健康に対する児童の自己管理能力の育成については、二極化の解消を目指し、改善の方策を具体的に示して、より一層計画的に実践していくことが求められる。

(2) 重点目標2（年間を通した教育課程の充実）

- 学校に対する思い入れの強い地域にある学校である。地域の人々は「よき久松らしさ」失わないことを求めている。今後とも時代の変化に対応しつつ、歴史や伝統を生かした教育課程を編成・実施して、地域の期待に応えることが大切である。
- 教師のアンケートから平成30年度から「特別の教科 道徳（道徳科）」に移行することへの対応が挙げられていた。道徳授業の指導力が優れた教師を活用して、校内体制を整備し、実施に備えるとよい。
- 保護者アンケートでは、健康教育や児童の健康増進・体力向上の項目が他に比べて「ア そう思う」が少ない。学校の課題としてとらえ、東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果等の結果を分析し、具体的な改善策を検討する必要がある。
- オリンピック・パラリンピック教育の発表会では、学校の創意工夫を生かした多彩な取組が行われており秀逸であつた。児童は、意欲的に活動に取り組んでおり、大きな成果が挙げられている。
- 保護者アンケート全体で、「ア そう思う」最も多かったのは、「児童が運動会や宿泊行事を楽しみにし、積極的に参加している」であつた。児童の望ましい人間関係の形成や学級・学校への所属感や連帯感の深まりがうかがえる。

2 今後の改善に向けた意見

- 複数の外部評価委員から、「学校評価アンケートが記入しづらい」「アンケートの内容が難しく分かりにくい」などの意見が出された。同様に感じる保護者もいると思われる。アンケートの質問項目に該当する児童の姿や学校の取組の様子を、発信したり説明したりする機会を一層増やしていくとよい。

3 その他の意見

- 学校全体が和やかな雰囲気の中で教育活動が進められている。地域も大きな期待をもって温かく見守り支援している様子がうかがえる。